

●行政視察（福岡県大野城市、太宰府市） 岩崎 由美  
7月6日（月）～7月8日（水）

1 研修先

福岡県大野城市、太宰府市

2 研修目的

防災対策

3 成果（具体的に）

【大野城市】

○逃げタオル運動

災害が起きて避難する時に、玄関やポストなど目立つところにタオルをかけておくことで、すでに避難したことが近所にわかる運動。

避難する途中で、ご近所の避難状況が確認できる。実際の災害時での活用はまだない。

課題：不在であることがわかり、それに対する防犯対策が必要となる。

○災害時応援協定

2 初期活動期、応急活動期、復旧・復興活動期にわけ、医療・医薬品関連、食料・日用品関連、法律相談など多岐にわたる分野別マトリクスに基づき、55 の協定を締結している。近隣自治体のみならず、分野によっては九州地方以外の自治体とも協定を結んでいる。必要経費は自治体より支出。

八丈町の場合：現在も建設事業者と災害協定を結んでいるが、狭い島の中で同時多発的に災害が起きた場合には人も物資も限られてしまう。島外からの支援は時間を要する。島内での災害、本土での災害の種類や規模によるシミュレーションを行っておく必要がある。

○d ボタン広報誌

在福の地方局である KBC 九州朝日放送が提供するサービス。テレビリモコンの d ボタンを押すことで、テレビ画面に市の広報が流れる仕組み。年配の方など、テレビをよく視聴している住民にとっては便利なサービス。

課題：情報入力には市で行うため、それぞれの自治体による情報量の差ができる。停電時、テレビが使えなければみることができない。

八丈島の場合：現在配布されているタブレットはバッテリーと電波が確保できている限り情報が得られる。実際にどのくらいの方が利用されているか確認する必要がある。

【太宰府市】

○避難行動要支援者避難支援制度

避難行動要支援者：1,468 人

個別避難計画策定済：473 名（個別避難作成同意者：1,378 名）

避難行動要支援者名簿作成のため、2 年に 1 度、対象者全員に申請書を送付している。主な支援者は、隣人、友人、知人、自治会長、自治会役員、民生委員。原則、身体状況に関わらず、要支援者 1 人に対して、避難支援者 2 人を決めてもらうように依頼。

課題：対象者が多すぎて支援者の確保が困難。高齢化が進み支援者のなり手がいない。現行制度では対象者が多すぎることから、支援体制を有効に機能させることが難しい状況であるため、対象要件について見直し中。

八丈島の場合：八丈町も同様の課題を抱えていると考える。特に坂下では難しい課題。共助の仕組みについてさらに検討していかなければならない。

### ○ペット同伴避難

「人とペットの災害対策ガイドライン」に基づく（現市長の議員時代の一般質問）。松川運動場体育館をペット同伴専用避難所として開設。駐車場での車中泊も可。避難所としての運営は、最大 50 基のワンタッチテントが設置可能。テント内には大小 1 個ずつのケージ収納可。ケージはレンタル用のものが大小 20 個ずつある。駐車場は 20 台が車中泊可。ペットフードの備蓄あり。ペット同伴避難ルールに従う。

課題：当該避難所が市の北部であるため、南部にも増設要望あり。

八丈町の場合：一般避難者とペット同伴者を分ける必要があるため、現在の避難所以外の場所の確保が難しい。避難所運営職員の負荷も予想される。

### ○トイレカー

大災害に備えて導入された「トイレカー」を見学。

1 回の給水で 400 人に対応。男性用（洋式 2、小便器 1）女性用（洋式 2）、多目的トイレ（オストメイト、おむつ交換、ベビーキープ、リフト）

ウォッシュレット付きで、一般のトイレと同等の快適さ。

1 台 3,000 万円とのこと。IoT システムで稼働状況を遠隔地から確認可能。平常時はイベントなどでも利用可。